

編集後記

■今号、執筆者、編集委員が渾身の力をこめてお送りいたします。大渦の中心に引き込まれるように原稿が集まってくるものがあるんだと。その光景の壮麗さに驚きながら、一方で、エリート編集委員、吉川さん、池上さん（今回も仕事丸投げ）にせかされて編集後記をもそもそと書いております。しかし編集者冥利であります。皆さんの熱気で溶けそうですよ。汗出てくる。眼からも。

■原稿のいずれもが生きている。執筆者の文面に浮かび上がる心の丈。切れ味鋭い文章たち。どれも滑稽で、真剣で、愚鈍で、とんでもなく聡明です。”好きなことをやってなんとか生きのびていく”ことへの執念。そびえ立つ高峰へのやるせない憧憬。荒い息づかいで、熱に浮かされている。それでいてそれを表には出さず、ぎりぎりのところで諧謔をもちいて、男前をよそおっている。いやいや、それでは女性陣に失礼。佳人がしたためるところのしなやかさとしたたかさよ。泣いて笑ってじっくりお楽しみください。いつ読むの？今でしょ。

■ノーベル賞特集いかがでしたでしょうか。執筆者は受賞者と濃密なお付き合いのあった方ばかりです。本来は Konopka 氏と Benzer 氏がもらうべきであったとの谷村氏の痛烈な一文。しかし両者ともお亡くなりになってしまった。Hall, Rosbash 両氏の出会いが今回の受賞につながったとの名越氏の指摘。出会いの偶然と必然を再認識させられます。研究テーマと出会い人と出会う絶妙。そして、1 度はプロテオグリカン説の陥穽にはまり一歩後退した Young 氏の逆転劇。受賞者の生き様や息づかいまでわかるような皆様の原稿に感謝です。そして日本語の雑誌ですのに、二つ返事で引き受けていただいた Justin ありがとうございます。お会いしたことないけれどももう親友ですよ、これは！日本に来たらいつでもうまいもの食べさせるぜ、吉野家で。

■Daan 氏、井深氏とは永遠のお別れとなってしまいました。Daan 氏は平成 18 年第 22 回国際生物学賞受賞者です。日本の時間生物学研究者にとってなじみ深い方でありました。お会いするたびに励ましていただいた。数理を駆使した研究は私の目標でありました。井深氏は、脳波の概日リズムを明らかにされたこと、季節性リズム、概年リズム研究のフロントランナーとして活躍されたことで名高い研究者です。両氏のご冥福をお祈りいたします。

■志村氏、竹前氏には睡眠リズム障害患者会の活動報告をご寄稿いただきました。私も睡眠体内時計外来で、朝、起きること

ができず学校へ行くことができなくなってしまった子供さんの診療に携わっております。よって切実さがありありとわかります。行きたいのに行けない子供たちが数多く存在します。子も親も大変です。“絶対にナマケモノとは呼ばせない。”

■小島氏、米国に暮らして、研究室を主催。研究室をもつまでのプロセスを詳細に記述いただきました。偉業であります。途方もない明るさ、前向きな思考を持った方でいともやすやすと現在のポジションを得たように見える。そんなことない。米国で PI になるのは大変。あとに続くものはどうすればよいのか。この力作を読み。ノウハウでんこもりの現在進行形体験記です。今号は第一章～黎明編～でした。次章～異形世界苦闘編～に続きます（編集長案）。”Applaud the spirit!”。

■総説を誇ります。内容のレベルの高さよ。査読も形ばかりのものではなく、しっかりと熟読玩味の上で批評いただきました。執筆者の皆様、査読者の皆様に深甚なる敬意を表します。ありがとうございました。奨励賞受賞のみならず、おめでとうございました。さすがの研究レベルであります。また、リレーエッセイ、学術大会関連報告、学会参加記の執筆ありがとうございます。若い方が書かれた文章にはあこがれと照れと背伸びがある。そして柔軟。いいなあ。萌え。

■岩崎氏には巻頭言と表紙お願いしました。巻頭言というよりエッセイとのこと。芸術と科学の狭間にたゆたいながらどちらの領域においても大きな業績をあげてきた傑出人です。幽玄の歴史が科学に交わった瞬間に現れたはかない結晶を文章と絵で表現されたように感じました。表紙まだみていませんが、歴史の暗部に関わる重厚なものとのこと（私信）。怖い。

■で、今号、分厚くなりまして経費が相当かかること必定。予算オーバー、わかっているって、今は存分に泣かせてくれって。辞表はいつでも出すからよ。穴埋めはさ、なんとかすっからよ。カネはあるんだよ、カネは。たぶん。。今日のところはなんとでもなると思わせてくれや。また汗流せばいいんだからよ。うんめえ酒もってこさせるぜ。今夜はとことん飲んでくれや。おいらは飲めねえんだけどよ。あんたがうまそうに飲んでる顔を見たいんだよ。

■文章から発せられる放射熱にあたって饒舌になってしまいました。明日からはまじめに生きようと思います。

(重吉)

時間生物学 Vol.24, No. 1 (2018) 平成 30 年 5 月 15 日発行

発行：日本時間生物学会 (<http://chronobiology.jp/>)

(事務局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所
吉村崇研究室内

TEL/FAX : 052-789-4069

Email : chronobiology.jp@gmail.com

(編集局) 〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東 377-2

近畿大学医学部解剖学

重吉康史研究室内

TEL : 072-368-1031

Email : shigey@med.kindai.ac.jp

(印刷所) 名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部